



バーチャル展示会の活用～旭化成ホームズ『ヘーベリアンネット祭典』参加いたします。

私たちセキュラは、これまで旭化成ホームズ様が開催されてきた『お役立ちフェア』に10年以上もの長い間に渡って参加させていただきました。当フェアは関東圏だけに止まらず中部、関西、西日本エリアなど全国各地で開催されております。そして、これまで当フェアを通じて3,000世帯以上のお客様にマイロックをご導入いただいていたことに対して感謝の念に堪えません。しかし、残念ながら、今日のコロナ禍のもと、感染拡大防止のために、フェアの開催が中止・延期されている状況です。そこで、ヘーベルハウスのオーナー様向けサイトである「ヘーベリアンネット」の中で『ヘーベリアンネット祭典』と題してバーチャル展示会を実施されています。8月・9月に実施された第一弾を受けて、新たに11月より第二弾が開催されることが決定し、**セキュラもお声掛けいただき参加することとなりました。**未だ多人数が集まる集会や展示会などが自粛されている中で、このようなバーチャル(WEB)展示会を開催される企業様も増えてきています。きっかけはコロナ禍の下、緊急措置的に広がっているバーチャル展示会ではありますが、先の未来を見据えた場合、実際の展示会とバーチャル展示会双方のメリットをミックスさせた新しいスタイルが確立される日が来るのではないのでしょうか。

これまでの『お役立ちフェア』



担当者と直接話し、実際の商品を目で見て触って実際に動かしてみ、商品の良さを五感で体験することができる、それが展示会の最大の長所です。



バーチャル(WEB)展示会



《メリット》

- ・主催者側だけでなく、出展者や参加者の出展費、交通費などのコストも抑えることができる
- ・場所、時間、天候などの制約を受けない
- ・参加者のデータ取得がより容易になる



右上)夏に開催された『ヘーベリアンネット祭典2020 SUMMER』。多くの反響があり、今回の第二弾開催となりました。商品紹介のデジタルカタログと企業様によっては動画も製作され、第一弾よりさらバラエティに富んだパワーアップした内容となる予定です。

ますます広がるマイロック

下の写真はこれまで**全国3000世帯以上**に設置させていただいたマイロックのほんの一例に過ぎません。これからもお客様に選ばれる商品であり続けられよう商品力をさらに強化していきます。





変わる働き方や生活様式～アフターコロナの時代に向けて

コロナ禍のもとで私たちの働き方や生活様式は変化してきています。働き方については近年の労働人口の減少を見据えた「働き方改革」のもとに労働時間の短縮、有給休暇の取得などの労働環境の改善、労働生産性の向上などと合わせて「個々の事情に応じた柔軟な働き方」が模索され始めたばかりでしたが、今回のコロナの影響により進化のスピードが速まることが予想されており、また、その変化への対応が企業に求められています。下記を一例として、今後も新たな方式が生まれてくると思われます。

<働き方>

- ・フレックスタイム制・・・始業時間、就業時間を自身で決定する働き方
- ・テレワーク・・・ICTを利用して場所や時間の制約を受けずに柔軟に働く形態
- ・時差出勤・・・ラッシュ時の人混みを避け、出勤時間をずらす出勤方法
- ・WEB(リモート)会議、商談・・・遠隔地にいる人とオンラインで行う会議や商談



<飲食>

- ・料理宅配代行サービス・・・これまで出前、宅配を行っていなかったお店の料理を自宅で楽しむことができます。UberEatsが有名ですね。
- ・ネットスーパー・・・食材をネットから調達し自炊する人も増えています。



<各種セルフレジ>

- 元々は主に人手不足の解消を目的に様々な店舗で導入されましたが、非接触型の接客として注目され導入が進んでいます。



<お部屋探し>

- ・VR内見・・・現地に行かずに、VRを利用して物件を内見。
- ・セルフ案内・・・入居希望者は事前に物件を予約をして、自身で内見できるサービス。
- ・IT接客、重説・・・以前から始まっていたものの、コロナ禍の影響で運用が進んでいる。



私たちセキュラは、多くの不動産会社様とお付き合いさせていただいておりますが、ITを活用した接客は今後もますます進んでいくようです。

<娯楽>

- ・ドライブinコンサート、シアター・・・屋外のコンサート会場、スクリーンを車中から鑑賞する
- ・VRコンサート、VR演劇、VR観戦・・・自宅等にしながらVRを使って、まるで会場にいるかのように楽しむことができます。今後、制限された人数の枠で現地に行く人とVRで参加する人に分かれていくのではないのでしょうか。



今月の言葉

心配とは、行動の不足から起こるものである。

今年の2月にお亡くなりになった元プロ野球選手、監督の野村克也氏の言葉です。

野村氏は現役時代、監督時代を含め、たくさんの言葉を残してこられました。その基本には野球選手である前に人間として社会人としての教育がもっとも大切であるという考えがありました。

その中の一つとして今回の言葉をご紹介します。

私たちは心配事や不安に心を悩まされることがあります。たとえば野球選手であれば「きちんと打てるだろうか・・・」「コントロールミスをしないうるか・・・」、私たちの普段の仕事であれば「何かトラブルが起きないだろうか・・・」「納期に間に合うだろうか・・・」等々、心配や不安の種は尽きません。しかし、その心配や不安はいくら頭で考えても消えることはなく、悪いことにその種は次の心配・不安を呼び起こしてしまいます。

そんな時は得てして行動量が足りていないことが多いそうです。今一度、不安や心配が尽きるまでやるべきことをやったのか自分の胸に問い合わせてみましょう。考え過ぎて何もしないより、どんなことでも良いから行動を起こしてみると、上手くいくこと上手くいかないことを繰り返しながらも次第に自分のやるべきことが明確になっていくそうです。